

第3期産業振興計画〈水産業分野〉の総括について

■ 水産業分野

養殖業や水産加工業が大きく成長。「高知家の魚応援の店」を活用した外商が拡大するとともに、水産物の輸出の本格化に向けた産地加工体制が整う。

漁業者の減少や高齢化が進む中でも、漁業生産額は目標の460億円を達成。

▽ 漁業生産額（宝石サンゴを除く）の推移（単位：億円） H20→H30 +2.9%

H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26
483	428	492	479	489	446	445
H27	H28	H29	H30			
483	420	470	497			

▽ 水産加工出荷額の推移（単位：億円）

H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26
171	160	162	165	165	173	175
H27	H28	H29	H30			
204	199	199	233			

[漁業生産の構造改革]

○黒潮牧場15基体制の維持

▶黒潮牧場でのカツオ水揚げ量 H20-H22 平均:624t → H23-H27 平均:761t → H28-H30 平均:1,072t

○養殖業、大型定置網漁業等への法人の参入促進

▶法人参入数 4法人（H28～R元）

○高知マリンイノベーションの推進

▶漁場予測システムの開発等、各種取り組みに着手

○クロマグロの養殖漁場の拡大や、生産基盤の整備を支援

▶クロマグロ養殖生産量 H24:651トン → H27:1,517トン → H30年:2,234トン

○クロマグロの人工種苗の生産技術が確立

▶沖出し尾数 H26:49尾 → H27:1,045尾 → H29:約23,000尾

○カンパチ人工種苗の生産技術が確立

▶養殖種苗出荷尾数 H26:0尾 → H27:試験配布81,000尾 → H29:50,000尾

○ブリ人工種苗の生産技術が確立

▶種苗生産尾数 約100,000尾（R元）

[市場対応力のある産地加工体制の確立]

○地域アクションプラン等による水産加工業を支援

▶水産加工品出荷額 H22:0.6億円 → H27:8.6億円 → R元:22.5億円

○水産業クラスターの中核となる加工施設等の整備支援

▶輸出に対応した大型水産加工施設が宿毛市に完成 (H31.3)

▶メジカ関連冷凍保管施設が土佐清水市に完成 (H31.2)

○加工施設等の HACCP 認証取得を支援

▶認証取得事業者数 H27:5事業者 → R元:14事業者

[流通・販売の強化]

○「高知家の魚応援店制度」による県内事業者とのマッチングを支援

▶「応援の店」登録店舗数 H26:374店舗 → H27:585店舗 → R元:1,030店舗

▶取引額 H26:0.6億円→H27:1.2億円 → R元:4.2億円

○県産水産物の海外市場への販路開拓、拡大

▶県産水産物輸出額 H26:0.2億円 → H27:0.3億円 → H30:4.4億円

[担い手の育成・確保]

○漁業就業セミナーの開催や短期・長期研修の実施

○令和元年度に（一社）高知県漁業就業支援センターを設置し、就業相談から就業後の経営安定までを一貫して支援

▶新規漁業就業者数:H20:28人 → H27:47人 → R元:39人 (H28~R元の累計:181人)

《さらなる挑戦》

□効率的な漁業生産体制への転換

・高知マリンイノベーションの推進

(デジタル技術を活用した漁場予測や漁海況情報の発信、産地市場のIoT化の推進等)

・企業誘致の促進による漁業生産量の増大

□外商ビジネスの拡大

・輸出の促進

・海外 HACCP に対応した加工施設の立地促進

・産地市場の機能強化



《第4期計画における4年後の目標》

○漁業生産額（宝石サンゴ除く）:520億円以上

○水産加工出荷額:270億円以上